

4月 ▶ 痛み
今週は
足



4日 頭

11日 肩

18日 腰

「血管詰まり」が原因かも

歩くとき足が痛くなり、休むと治る。こんな症状は、血管に問題が起きてくるかもしれない。足の痛みは早めに対応し、適切な診断と治療を受けることが大切だ。

大阪府門真市の主婦(70)は1年半ほど前、足が痛くなって散歩をやめた。巻き爪が原因と思っていたが、昨春秋、右足の親指の先に小さなかさぶたができ、やがて黒っぽくなった。「なかなか治らない」と感じていたら、指先全体が徐々に濃く変色してきた。

「壊死しているじゃないですか」。人工透析の通院先の主治医が異変を見つけた。関西医科大学大滝井病院(同府守口市)の末梢血管外科部長、駒井宏好教授の診断を受けると、右足の膝から下の動脈が詰まっていた。今年3月、詰まった部分を迂回し、新たな血管を作るバイパス手術を受けた。主婦は4月に退院、「指を切らなくていいと言われ、うれしかった」と話す。

●高齢化で患者が増加
高齢化に伴い、足の動脈が詰

末梢血管外科が扱う足の異常 (駒井教授への取材から)

- ＊閉塞性動脈硬化症の疑い
 - ・一定距離、一定時間歩くと足が張り、痛んで歩けなくなる。少し休むと歩けるようになるが、いつもこの症状が変わらない。
 - ・足の指先に傷ができて何カ月も治らない。
 - ・足の指先が黒くなり痛む。
- ＊静脈瘤(りゅう)の疑い
 - ・足の血管がミミズのように浮き出てくる。
 - ・立っていると足がだるくなる。こむら返り(つり)がひどい。
- ＊深部静脈血栓症の疑い
 - ・片足だけ突然、太く腫れ上がる。
- ＊急性動脈閉塞の疑い
 - ・不整脈があり、突然足先に耐えがたい痛みが生じて色が悪くなる。



①エックス線による末梢血管造影検査で撮影した閉塞性動脈硬化症の患者の足。膝から下の動脈が詰まり、血液の流れが悪い
②バイパス手術後の患者の足。膝下の血流が回復した様子が分かる
＝いずれも駒井宏好・関西医科大学教授提供



時間歩くと足が張って歩けなくなるが、少し休むと歩けるようになる。いつもこの症状が変わらない」という状態だ。

「このほか、「足の血管が浮き出る」「片足だけが突然腫れる」などの症状があると、血管の異常が疑われる。喫煙や糖尿病があると重症化しやすい。今年2月に「末梢血管外科」を開設した関西医科大学のように、このような患者の治療を行う病院を受診することが勧められる。初期

は運動療法や投薬が選択肢で、効果がなければ、バイパス手術などが実施される。

駒井教授は、70歳以上の高齢者の場合、足首で測った血圧値を、上腕部の血圧値で割る「ABI」検査を勧める。この値が0・9未満だと、閉塞性動脈硬化症の疑いがある。駒井教授は「動脈硬化は足の痛みだけではなく、心筋梗塞なども起こす。血管の健康管理は重要だ」と注意を促す。

●腰からくる神経系も

足の痛みには、他の原因もある。和歌山県立医科大学(和歌山市)の吉田宗人教授(整形外科)によると、「間欠性跛行」があっても、休んで痛みが取れる時の姿勢によって原因が異なる。吉田教授は「立ったまま休んで痛みが取れるなら血管性の痛み、しゃがまなければ治らないようであれば腰からの痛み」と説明する。

腰から起きる足の痛みの多くは、神経が通る背骨の空洞「椎管」が狭くなる「椎管狭窄症」が原因だ。高齢者に多く、国内の推定患者は580万人に上る。股間、ひざの関節、アキレス腱などの長年の酷使でも痛みが生じる。神経系と血管系の痛みが併発する可能性もある。吉田教授によると、軽いうちに受診すれば、運動療法や投薬で9割は治るため、「足が痛くなったら、早めに受診して原因を見極めて」とアドバイスする。